環境パートナーシップちば

だより

— つながれ ひろがれ —

Vol.14（領価200円）

編　集　環境パートナーシップちば
代　表　横　山　清　美
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団 環境学習推進室内
電　話　043-246-2180
FAX　043-246-6969

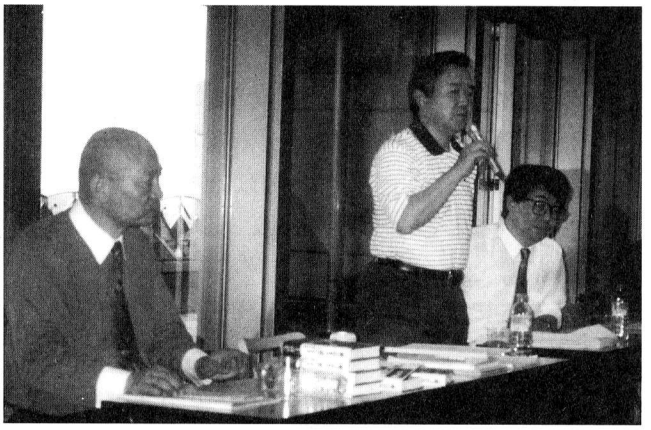
第１回学習会「地球温暖化を考える!!」

「環パちば」の本年度の総会にて、“地球温暖化防止”への取り組みを重点方針とすることが提案され、学習会やフォーラム・エコツアーを重ねていくことが決議されました。その「学習会シリーズ」の第１回目が、40数名の多くの方々にご参加いただき、５月27日千葉市立美術館において行われました。

上堅勛黄氏が、ビデオ「海　知られざる世界―２千年の大航海―」を解説し、千葉県環境研究所騒音振動研究室長の石井皓氏が「地球の危機」、千葉県環境生活部環境生活科政策室副主幹の高梨秀一氏が「千葉県地球温暖化防止策について」、環パちば代表の横山清美が「環パちばの取り組みについて」の話題を提供し、活発な質疑応答が続きました。

以下に上堅勛黄氏のレジメを掲載し、報告とさせていただきます。

広報部　縣　和子



上堅勛黄氏・石井　皓氏・高梨秀一氏（左より）

CO_2増による人類生存危機のメカニズムとその対策

衆議院特別職政策担当
エコシステム研究会代表　上堅　勛黄

〈はじめに〉

地球温暖化の人間の所業による主原因は分類すると、エネルギーが57％、クロロフルオロカーボン（ＣＦＣ）類が17％、農業が14％、土地造成が９％、諸工業が３％であるという。この分類によれば、化石燃料のエネルギー利用は人間所業の主要因の57％を占めている。この値はCO_2による温室効果に基ずくものである。ＣＦＣ（Chloro Fluoro Carbon）類はオゾン層を破壊するだけではなく温室効果も大きい。化石燃料は石炭、石油、天然ガスを併せて、石油換算（カロリー等価）で年間64億トン、全エネルギー利用の80％を越える。この燃焼だけで年間180億トン以上のCO_2を排出している。地球の平均気温はこの温室効果で60年ごとに３℃上昇してきている。

物質の燃焼熱などのエネルギー利用で直接熱になるエネルギーは、太陽エネルギーの50 ppm以下で蓄積されないので、地球の温暖化に対して問題にならない。

〈CO_2のグローバルシステム〉

グローバルにCO_2を考えるときには、その発生

源、リザーバ（Receiver；容器、受器）、そして、吸収源の３要素を同時に考える必要がある。

CO_2は大気中に２兆５，670億トンあり、これが地球の気温を年間を通して大きく変動させない働きをしている。しかし、近年人類生存の危機が叫ばれるCO_2の主要因は、人間の所業による化石燃料の燃焼からのCO_2が自然界のCO_2のサイクルを乱している点にある。

〈発生源〉

日本国はCO_2の排出量が世界で４番目に多い国で、７億８,000万トンを排出している。その内訳は一般産業から２億６,000万トン、発電から２億１,000万トン、運輸から１億８,000万トン、民生利用から１億３,000万トンとなっている。

この内訳を分析すると、自動車はメンブランで、工業炉は新燃料法等の科学技術で革命的な改良がされようとしているが、発電に関してはなんら手をつけようとしないのが現状である。

〈発電方式によるCO_2排出とその問題点〉

① 石炭火力発電。
② 原子力発電。
③ 水力発電。

〈リザーバ〉

リザーバは、グローバルには森林（特に熱帯雨林）と大海洋がある。CO_2のグローバルシステムで最も重要な役割を果たしているのが、植物の光合成作用によるCO_2の呼収である。森林が国土の70％を保持する日本では、夏季の光合成は、夏季の気温上昇で海水・淡水中に溶解をしているCO_2の放出が大気中へのその放出増を上回って活発になり、大気中のCO_2濃度は冬季よりも低くなる。

森林の伐採はグローバルには年間20万km^2（本州の面積が23万１，100km^2）以上の割合で進んでおり、この25年間で3.8倍以上の割合になっている。日本人１人が年間使用する紙の量は、森林にして途上国の１人が消費するエネルギーに等しい計算になる。

リザーバは大海洋で128兆トンに及ぶが、表層水（１兆８,300億トン）のみが大気中とCO_2交換をする。そこでグローバルなCO_2問題は、大海洋抜きで考えることはできない。

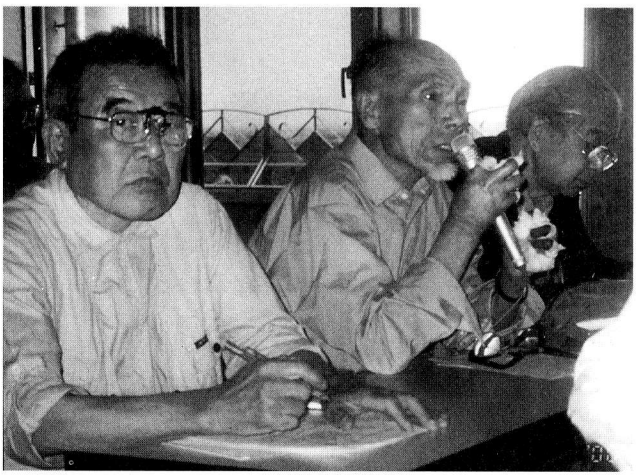
例えば海水の温度は、１℃上昇すると100億トン以上のCO_2が大気中へ放出される。人類にとって「最悪なシナリオ」はこの点にある。CO_2による温室効果が気温を上昇させ、その結果海中からCO_2を放出し、それが更に気温を上昇させるという「相乗効果」を生み出すのである。さらにこの「相乗効果」は、海底などに寝ているメタンハイドレードの崩壊へ点火し、「悪魔のサイクル」が作動して、メタンガスが大気中へ放出される点である。これは炭素換算すると、その埋蔵量が天文学的数字の10兆トンもあると言う。それは、本来リザーバとして働く大海洋の機能がこのような「悪魔のサイクル」で瞬時に大発生源として変身する。この引き金を引かないようにすることが、人類にとって最も重要なことで忘れてはならない点である

〈吸収源〉

CO_2の吸収源は、この最悪のシナリオを脱出するために必要な人工生態系を構築する環境創造技術にある。

〈おわりに〉

限られた講演時間とレジメ紙面では、「CO_2増による人類生存の危機のメカニズムとその対策」というテーマに関して、個個人の意識行動についても十分にふれることができなかった。そこで不充分な点は、原著書「人類は80年で滅亡する」東洋経済新報社で十分な学習をされるよう希望する。



熱心な質疑応答

第2回学習会「地球温暖化防止」Action Part 1 報告

梅雨の季節に無謀にも、「スターウォッチングからの気づき」というサブタイトルの学習会を開き、7月12日から13日にかけて「市川市少年自然の家」に20数名の往年の少年少女が暑い暑いと言いながら集いました。当日は市川市教育委員会・市川市環境部・市川市環境文化財団にご協力をいただき、感謝いたします。

初めに、千葉県大気保全課の永瀬将史氏による「2000年千葉県における『全国星空継続観察』のとりくみ」についてお話しいただきました。空に親しむ啓発事業としての①スターウォッチング・ネットワーク②おおぞら観察③雨の酸性度チェック④樹木の大気浄化能力調整⑤アサガオによる大気環境観察等です。この中で私たちは、冬期のすばる（プレアデス星団）の観察を計画に組み込むべく検討を始める事となりました。

次に環境カウンセラーの松本孝氏の「星空観察へのお誘い～夜空も自然です～」についてスライドを使用した、星と自分との関わりあい、ライフワークとしての太陽研究等天文の興味深いお話しが続きました。

セルフサービスの夕食をいただき入浴も済ませ、第2部は少年自然の家の関登氏の「プラネタリウムによる夏の星空観察」と題した、天の川と織り姫伝説・夏の大三角形等の投影しながらの解説でした。このあと市川自然博物館の金子謙一氏のご好意により、自然園の幻想的なヘイケボタルを観賞し、ロマンチックな夜の散歩を楽しみました。

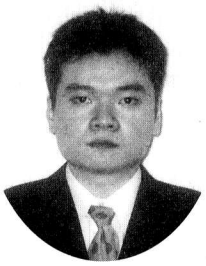
最後に「地球の温暖化」について、環境研究所の石井晧氏が学習会環境教育の重要性と絡めて考えさせられるお話しをしてくださいました。

夜は地元市川市青年会議所・市民団体の方々も加わって水カンリンバの紹介もあり、膝を交えた懇親の機会を持つことができました。一夜明けて分担の清掃を済ませ、閉講式を行い無事散会となりました。

なお、その後オプショナルツアーとして、市川自然博物館の金子謙一氏の案内で大町レクリエーションゾーンを回り、ヤゴの抜け殻を見つけたりしながら動植物の生態をゆっくり観察できました。

事業部　田口迪夫

講師ご紹介


永瀬将史氏

松本　孝氏

関　　登氏

石井　皓氏

参加者からの一言

＊スターウオッチングという夢にあふれた行動が、地球温暖化によって星空が輝きを失ってきている現象の確認になってしまうというのは悲しいですね。郷里の長野県大町市のキラキラと降るような満天の星空を思い出します。　（松戸市　縣　和子）

＊スターウォッチングと地球温暖化とどうつながるかと思っていたが、天文に詳しい人がいて星の視程をもって、環境の変化を計ることでつながるということでした。ただプラネタリウムを見て、実際の星との確認ができて楽しかった。なお環境の専門的分野においての情報をもらい、環境の重要性が分かり、有意義な研修でした。

（千葉市　井上一市）

＊いろいろな環境グループの方々との出会いと石井先生のお話から、また新たな元気（活力）を与えていただきました。たいへん有意義な講座に感謝しております。　（千葉市　小野　郎）

＊初めて宿泊研修に参加、40年間生活した市川市だったので、離れて35年後も良い環境が保たれ、皆様との交流も楽しかった。
（八千代市　川島和幸）

＊星空は貴重な自然なのだ、また人類のチエの出発点なのだという講師の言葉で、現代人が忘れていた星空の世界を見直すことができました。良い勉強になりました。　（我孫子市　川原啓佑）

＊久しぶりに星空の素晴らしさ、ホタルの可愛らしさに感動させていただき、多くの人との出会いに感謝。ありがとう。　（松戸市　桜井秀三）

＊初めての宿泊学習会、参加者の皆さんもすてきな朝を迎えられたようで、企画担当者としては、こんな嬉しいことはありません。
（柏市　田口迪夫）

＊ホタルを見た。カエルの声を聞いた。水たまりに足をとられる。いつか過ぎた時が戻ってきた。またの企画を楽しみに。　（松戸市　田邊義夫）

＊「星空も自然」なんだ。光害に犯されずにキレイな星を眺める機会の少ない最近は、本ばかりが増え実践がともなわず淋しい限り。
（御宿町　永島東洋輝）

＊松本氏の星の話は、具体的で楽しかった。宇宙も大自然であることに認識を深め、もはや宇宙規模への環境対応が必要であることは、ひるがえって考えれば人間の罪深きに由来することなのでしょう。1泊も楽しいですね。（御宿町　永島輝代）

＊草むらの奥の暗い静寂の中にともる、1灯のヘイケボタル。ささやかな活動ながら確たる証しを示す彼らに、環境活動のしるべを見た思いがした。
（市原市　山口由富子）

金子謙一氏（手前中央）

マイバッグ募集します

10月21～22日、今年も幕張で「エコメッセ」が開催されます「環パちば」の出展の一つとして、「マイバッグ」の展示を計画しています。各地の皆様からマイバッグを募集します。

①　自社ブランドのバッグ
デパート・スーパー等でレジ横に「買物袋をご持参ください」と貼り紙をし、店独自の買物袋も販売している店が多くなっています。材質も値段も様々です。
②　手作りバッグ
実用的なもの、お洒落なもの、楽しいもの「見て！見て！」のコーナー。
③　配布されているバッグ
企業が宣伝用に配布しているもの。
行政や団体が、イベント等の際啓発目的で作ったもの。

手作り大歓迎です。③についてはご自分の自治体にアタックしてください。

「入手や送付についての経費」「手作りバッグの実費（多少使用している物も可。原則的には返却しないのをご了解ください）」は、請求してください。お手数をおかけしますが、ご協力お願い致します。

なお、収集のバッグは、「エコメッセ」終了後、各地のイベントにも貸し出す予定です。デパート、大手スーパーについては、調査を含めて直接入手しますので、除外します。

送付先：〒273-0046
船橋市上山町3－634－22
大西優子　TEL 047－439－8361

ちばが変わる、地球も変わる『エコメッセちば2000』開催予告

1：開催趣旨

1996年から始まり今年で5回目の開催になります。実行委員会方式により市民・企業・行政がそれぞれにあるいは共同で、環境について楽しみながら考える「イベント持ち寄り型イベント」です。

2：期間・場所

10月21日（土）～ 10月22日（日）

千葉市幕張新都心

3：主催

エコメッセちば2000実行委員会

（環境保全活動団体、市民、幕張新都心まちづくり協議会、企業、財団法人千葉県環境財団、千葉県、千葉県企業庁、千葉市…賛同行事の主催者等で構成）

4：「環パちば」としての賛同行事企画

※あなたもグリーンコンシューマーに

エコチェックアンケートをすることで、ライフスタイルを変えていく必要を理解してもらう。

※団体会員の活動紹介

自由にパネル展示等で、わかりやすく環境活動を紹介してもらう。

※エコバツグ展示

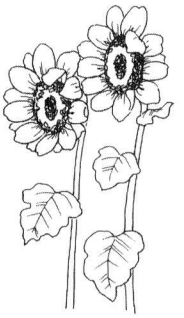
詳細は別記

※絵手紙コンテスト

地球へのメッセージを託す絵手紙を、小・中・高・大学生、一般から募集し展示する。各賞も用意し表彰式を行う。

※リサイクルだこ講習

レジ袋で凧を製作し、大空に舞わせる。



問合せ先：縣　和子

（エコメッセ実行委員）

tel＆fax 047-364-3950

「環境シンポジウム千葉会議2000」は、11月19日（日）富士通を会場に決定！

お待たせいたしました！今年の「環境シンポジウム千葉会議2000」は、11月19日（日）に幕張新都心にある富士通㈱の会議室をお借りして開催が決定しました。1999年の第5回までお世話になった日本財団の助成金も打ち切られることとなり、昨年10月のシンポジウムの中でも、これで終わりで良いのかとの論議がなされて、皆様も注目されていたことと思います。

このシンポジウムは、1995年第1回から千葉県において「持続可能な社会に向けて1歩を踏み出すために」の大きなテーマを持って、市民・企業・行政のパートナーシップを学ぶ場として大きな力となってきたことと確信しています。又シンポジウムを作り上げて行く実行委員も市民・企業・行政からの実際の参加度も全国的に見てもレベルの高いものと評価されています。実行委員の中でもこんな大事な場を提供しているシンポジウムを終わらせてもいいものかとの論議がシンポジウム前後になされ、続けようとの意志が合意されて行きました。そして春何回かの準備会の後、6月第1回実行委員会が開かれるにいたりました。

形として分科会に時間を掛けていくため、思いきって基調講演をなくしました。その力を入れていく分科会は、地球温暖化防止・めざせごみゼロ循環型社会・オオタカ、トンボ、メダカ会談・環境学習は生涯学習・学校教育の中での環境学習など、いずれも仮称ではありますが走りだしました。各分科会では熱意を持ってこれに関わっていただけるスタッフを募集しています。是非会員の皆様には、スタッフとして作り上げて行く作業に参加していただきたくご連絡お待ちしています。

連絡先：横山清美（シンポジウム実行委員長）

tel＆fax047-353-8134

国連支援交流財団流山支部「愛・Peace」発足記念
ミレニアム環境フェスタ

訪問シリーズ

国連支援交流財団（ＦＳＵＮ）は、人類の繁栄と平和のため、国際的な交流を推進するアメリカ法人機関（本部はニューヨーク）として1998年に誕生しました。カンボジア支援（ダム・学校建設・義足供与・医薬品贈呈）や、国連研修（ニューヨーク・ジュネーブ）等を始め、数々の国際支援を積極的に行っており、世界15カ国1200人のメンバーを持つＮＧＯです。

日本各地の支部でも個性的な活動を通じて、流山の人々との力強いネットワークを拡げています。流山支部は、13番目の支部として誕生し、松下支部長を中心に地域に根差し、市民一人ひとりができる平和運動をめざし、“貴方も小さな国際貢献をしませんか!!”とのキャッチフレーズを掲げて、「流山支部発足記念ミレニアム環境フェスタ」を５月14日南流山センターにおいて開催しました。流山市・流山市教育委員会の後援をいただき、来賓の市長を始め参加者200余名の多くの方々にお集まりいただきました。

循環型社会の意識変革を図りながら、地球にやさしい暮らし方をかんがえましょうと市民に呼びかけ、エコ展示・エコバザー・講演・コンサート・エコアンケートと５部門で行いました。環境ホルモンと食品の講演では、環境汚染が人間の健康を蝕んでいる事例をあげ、それに対する具体的な防衛策が述べられました。コンサートでは、ピアノの連弾や独唱のマイフェアレディより「踊りあかそう」など、心も軽く豊かな一時を過ごしました。「ちびっ子学童南クラブ」の手話による全員合唱で、は子ども達に21世紀の希望を感じました。

演奏終了後は、地元の企業・他のＮＧＯやボランティア団体等の協力を得てのバザーや展示が大好評でした。バザーの収益金は財団本部へ寄付し、楽しみながら自然に国際貢献ができました。

会場入り口の環境アンケートコーナーでは、「地球温暖化防止に対して積極的に考えて行動している」「ケナフを植える作業に参加してみたい」「ケナフの製品を使用していきたい」等前向きな意見が多く、「自治体・ＰＴＡ・ボランティア団体等と連動して進めて欲しい」との積極的な声もあり、今後も１年間かけて2000枚以上のアンケートを集めて市に届け、市民と行政とのパイプ役を担っていきたいと思っています。来る10月22日国連デーに、チャリティ・フリーマーケットを企画していますので、皆様のご参加をお待ちしています。

連絡先：流山市三輪山１２０２－７
時任きよ子(愛・Peace副支部長)
Tel・Fax 0471-59-4954

〈環境パートナーシップちば〉
入会申込書（該当するところを○で囲んで下さい）
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）会費を添えて入会します

氏　　名		入会月日	
住　　所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
申込み先	TEL043-246-2180　FAX043-246-6969		
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		
会費納入先	郵便振替口座　00160-9-401872　環境パートナーシップちば		

編集後記

「環パちば」に於ける「地球温暖化防止」活動も、徐々にではあるが活気を帯びてきた。それだけ現地球環境の悪化が各人の脳裏に認識されてきた証拠と受け止めてよいのであろう。しかし、ここで徒らに危機感を煽ることは、繊細な、または感受性の強いこどもたちにとっては、「エコ・フォビア（環境問題嫌悪症）」を生むだけでしかない。自然が様々ならヒトも様々。「だより」は、ハード＆ソフトをこころがけてお伝えしたいと考えている。　（山口）

この「環境パートナーシップちば」だよりは、再生紙を使用しています。